

■ノロウイルスの概要

感染経路	おもに経口感染および接触感染により感染する。 (食品からの感染) ◆汚染されていた二枚貝を、生あるいは十分に加熱調理しないで食べた場合。 ◆感染した人が調理して汚染された食品を食べた場合。 (人からの感染) ◆患者のふん便や吐物から人の手などを介して二次感染した場合。 ノロウイルスは、汚染された食品や 便・吐物に接触した手を介して感染する「接触感染」、吐物などからの飛沫を吸入して感染する「飛沫感染」、吐物や下痢便の処理が適切に行なわれなかったために残存したウイルスを含む小粒子が空气中に舞い上がり吸入して感染する「空気感染」により、人から人へ感染していきます。
潜伏期間	24 時間～48 時間程度
症状	吐き気、嘔吐、下痢、腹痛

■医療施設における感染対策のポイント

手指衛生	◆有症状者やその周辺環境に触れた後は流水と石鹸による手洗いをを行う。 ※ノロウイルスはアルコールの効果を得られにくい場合があるため、流水と石鹸による手洗いを遵守して下さい。
環境消毒	◆人の手が頻りに触れる高頻度接触面(ベッド柵・モニター類のスイッチなど)は 1 日 1 回以上の頻度で清拭、消毒して下さい。
排せつ物の処理	◆吐物や便が飛散するおそれのある時は手袋、ガウン、マスク、ゴーグルを着用して下さい。 ◆ふん便や吐物を処理する場合は、部屋を十分に換気し、ペーパータオルなどで吐物を覆い、ペーパータオルの上から次亜塩素酸ナトリウム(0.1%)を浸し静かに吐物を除去します。その後、次亜塩素酸ナトリウムが残留しないように水拭きを行います。 ◆おむつや拭き取りに使用したタオルやペーパータオルは、ビニール袋に密閉し、漏れないようにして廃棄しましょう。
職員の健康管理	一般的な取り決めはありませんが、体調が回復してもノロウイルスは便内に排泄され、感染の可能性が完全にはなくならないため、嘔吐、下痢の症状消失後 48 時間以降を目安として就業を再開しましょう。

編集後記

広報室 M

年末の平日に伊勢の二見浦へ行ってみました。伊勢神宮の正式参拝順路は、二見浦の「二見興玉神社」からという古式ゆかしい伝説に従い、早朝から近鉄で突撃したのですが、そこにあった鳥居に違和感を感じました。2段目の横樑が突き出していないではないですか!! これは神明鳥居と言われるタイプで、なんでも神明とはアマテラスオオミカミを意味するらしいです。そういえば、近くに天岩戸があり、アメノウズメノミコトさまも踊ってらっしゃいました。何とも神話な一日でした。



東住吉森本病院 地域医療連携センター

診察・検査・入院のご依頼、その他お問い合わせ
(地域医療機関・施設さま専用)

メールアドレス: m_chiiki@tachibana-med.or.jp

電話: 0120-65-0343 FAX: 0120-10-5260

【受付時間】 平日 9:00～20:00

土曜日 9:00～17:00

地域医療連携センター長 坂上 祐司

副センター長 井内 郁代

*東住吉森本病院のホームページでも情報が日々更新されております。 <http://www.tachibana-med.or.jp>

医療法人橘会 東住吉森本病院 地域医療連携センターだより

発行所: 寺柿 政和 / 事務局: 地域医療連携センター・広報室

<http://www.tachibana-med.or.jp/> 〒545-0014 大阪府東住吉区森本4-1-2 森本ビル TEL: 06-6505-0010 代人 FAX: 06-6505-0013

【院長挨拶】



新しい年 2017 年を迎えました。昨年 6 月のイギリスの EU 離脱が続いて、この 1 月にはアメリカの新大統領就任で、世の中はますます不安定性を増しています。このような時こそ、不安に迷い込むことなく、いま一度足もとを見つめ直して、「変わるもの(こと)」「変わらないもの」「変えていくべきもの」「変えてはならないもの」を確認し、自分自身で考え行動する必要があるのかも知れません。例えば、当院の「患者さん・地域・働く仲間のため」という理念は、「変えてはならないもの」であり、一方その理念を実行していく過程での個々の内容・方策については、日々振り返って、より良いものに「変えていくべき」ではないか・・・年頭にあたりその様なことを感じるこのごろです。

さて、1 月から大場一輝先生を迎えて、緩和ケア病棟が再出発します。3 年前に前院長の田中宏先生が立ち上げられ、藪内内科主任部長とともに運営されていましたが、ここ数か月間は診療内容を縮小しておりました。これからまた新たな歩みを開始し、地域の皆さんと連携を深めてまいります。今年もどうぞ宜しくお願い致します。

寺柿 政和

【大規模災害訓練】

昨年 10 月 23 日に毎年恒例の大規模災害訓練を実施いたしました。今回の訓練内容は、ブラインド型のトリアージ診療訓練。地震発生より 1 時間ほど経過し、近隣周辺の多数負傷者受け入れを行うという設定で大阪市消防局・東住吉消防署にもご協力いただいた訓練となりました。



【海外医療従事者の 1 日救急・総合診療センター一見学】

昨年 11 月 2 日、12 月 7 日の 2 回にわたりインド人医療従事者(医師、看護師)が当院 ER の見学に来られました。大阪市大救命救急センターよりのご紹介で、7 月にも当院は同国の医療従事者を受け入れており、好評につき第 2 陣、第 3 陣という運びとなりました。

当日は、池邊副院長を中心に救急外来での機能説明、午後からは、症例検討会などのプログラムを実施し、臨床研修医も参加しながらの当院にとっても有意義な会となりました。



この度1月4日より緩和ケア科・部長として着任しました大場 一輝と申します。前任者、田中 宏先生の退職に伴い、引き続き緩和ケア診療を担当させていただきます。私は1995年に大阪市大を卒業後、同医学部附属病院肝胆脾外科で臨床に従事しました。2001年から大阪市大病院およびベルランド総合病院で緩和ケアチームに参加。2014年に淀川キリスト教病院ホスピスこどもホスピス病院での緩和ケア研修の後にベルランド総合病院緩和ケア病棟の専従医として診療を行ってまいりました。ご縁があり2017年1月から東住吉森本病院にて勤務させて頂くこととなりました。本日は、改めて当科のご紹介をさせていただきます。



● 1. 当院の緩和ケア外来診療について

当科の外来は、2つの機能を有しております。1つは、緩和ケア病棟入院への窓口、もう一つは、症状緩和を行っております。まず、他院から緩和ケア病棟へ入院を希望される患者様には必ず当外来を受診していただき、ご病状やご療養状況などを伺った上で、当病棟オリエンテーションをお受けいただき入院予約としております。今すぐに入院を希望される患者様だけでなく、他院で抗がん治療を続けておられる方、在宅医や訪問看護師さんの支援を受けながらご自宅で生活なさっておられる患者様に対して、痛みや呼吸困難、倦怠感といった身体的な苦痛や気持ちの辛さなどの精神的な苦痛を少しでも緩和していただけるよう、外来での緩和ケアも行っています。

● 2. 緩和ケア病棟の診療体制について

緩和ケア病棟入院の目的は、①症状緩和、②看取り、③レスパイト、④在宅緩和医療のサポートです。隔週金曜日の午前には、非常勤ではありますが精神科医のリエゾン診察も行われております。主治医としての受け持ち制は、院外からの紹介患者様は大場もしくは藪嶋内科主任部長が単独で受け持っております。看護師は、江口師長（緩和ケア認定看護師）、松本主任（がん性疼痛看護認定看護師）を含め15名、看護助手2名の合計17名のスタッフが在籍しており、その他、管理栄養士、医療相談員、セラピスト（理学療法、作業療法、言語療法士）、薬剤師なども勤務して患者様のサポートをしております。

● 3. 緩和ケア病棟イベント

全人的苦痛を抱えている患者様やご家族様に対して、緩和ケア病棟では非薬物療法のひとつとして春夏秋冬季節のイベントを行っております。イベント運営は病棟スタッフが中心に企画しております。去る1月8日には、新春の企画「和太鼓演奏」を外来フロアにて実施いたしました。患者様にも喜んでいただきました。

今後はさらに機能を充実し、これまで以上に地域の皆様に信頼頂けるよう頑張っておりますので、今後ともご支援下さいますようお願い申し上げます。



当院は大阪府指定のがん診療拠点病院です。指定を受けた病院においては、がん治療水準の向上に努めるとともに、緩和ケアの充実、在宅医療の支援、がん患者・家族等に対する相談支援、がんに関する各種情報の収集・提供等の機能を備え、地域におけるがん医療の充実に努めています。平成26年1月の整備指針により、緩和ケアが提供される体制整備の1つとして、**がん診療に携わるすべての診療従事者によって実施される苦痛のスクリーニング**が、がん診療拠点病院の指定要件に追加されました。診断時から外来及び病棟での系統的な苦痛のスクリーニングの実施が義務化されているのです。この活動のねらいとしては、①患者の苦痛のすくい上げの強化、②患者がご自身の苦痛を表現できるようになる、ことです。

右に示している当院独自の「苦痛に対する問診票」は、OPTIM（緩和ケア普及のための地域プロジェクト）で提示されている「生活のしやすさに関する質問票」を基に作成しました。一般的にがん患者は、全人的苦痛（身体的・精神的・社会的・スピリチュアルな苦痛）を抱えていると表現されます。上段の数値で表現できる部分は身体的・精神的苦痛を、下段のチェックボックスで表現できる部分は、社会的・スピリチュアルな苦痛を把握できるようにしました。問診票は全てのがん患者を対象にとっており、得られた問診票は、院内のがん関連の認定看護師（緩和ケア認定看護師、がん性疼痛看護認定看護師）へ集約されます。認定看護師は、当該部署スタッフと一緒にサポート方法を考え、当院看護部の理念である「主役は患者の看護を実践する」につなげます。また必要時は、緩和ケアチームやがん相談支援センターの介入に対するアドバイスもしています。

緩和ケア認定看護師 江口 由紀

苦痛に対する問診票（患者使用）

記入日

下記に記入し下書き、未記入でも問題ありません。記入後は、看護部へ送付し下書き、
（看護部記入欄に貼る）

患者氏名： _____ 性別： 男・ 女 _____ 年齢： _____
代理人： _____ 敬称： _____

1. 現在つらい苦痛があれば、該当する数字に○をつけて下さい。

	全くない	ややない	ややある	ある	多い	とても多い					
痛み	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
だるさ	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
息苦しき	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
食欲不振	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
社会的	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
精神的	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
不安	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
その他()	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10

2. 医師への病状説明に関する希望について。
 どのよう説明してほしいか、よく説明してほしい、はっきりと正確に説明してほしい
 どのよう説明してほしいか、よく説明してほしい、はっきりと正確に説明してほしい
 病状に関することは詳しくない、自分自身(家族など)で理解したいと思う人だけに説明してほしい
 今ほめてもらいたい

3. 自分で判断できない場合、どのような意見を望みますか？
 明確 曖昧 子ども 兄弟姉妹 その他 いらない(自分で判断したい)
 該当する方の名前を記載して下さい(氏名) _____ 関係 _____

4. 専門職種への相談について。
 つらい症状について
 日常生活の心配について
 検査での不安や辛いこと、費用やサービスなどについて
 治療の副作用や痛み、副作用について
 その他 _____

■ノロウイルス

ノロウイルスは毎年11～1月に流行する、感染性胃腸炎の原因となるウイルスです。特に本シーズンの感染症発生動向調査における感染性胃腸炎患者の報告数は、直近5年間で最も流行した平成24年に迫る水準となっています。ノロウイルスは感染力が非常に強く、少量のウイルスでも大流行を引き起こす可能性があります。適切な感染対策を行い、早期に流行拡大を防止することが大切です。

(次ページへ続く)